

宮っこきずな部会



谷口永峻議長

次に、宮っこきずな部会 31番 宇都宮工業高等学校2年 水上逸人さん、32番 宇都宮海星女子学院高等学校2年 中村ののかさん。

31番 水上逸人議員

議長， 31 番

32番 中村ののか議員

議長， 32 番

〔 31 番 水上逸人議員， 32 番 中村ののか議員 登壇〕

31番 水上逸人議員

31番，宇都宮工業高等学校の水上逸人です。学校の校庭に設置されたトイレの開放とゲートボール場など校庭に高齢者が活動できる施設の設置について提案いたします。

まず、トイレの開放についてですが、宇都宮市内の公衆トイレは人口約50万人に対し、約150箇所です。これは、1箇所につき3000人以上の人が使う計算になり、あまりにも少ないと思います。

そこで、通行量の多い、身近な場所である小中学校の校庭のトイレを開放するというのはいかがでしょうか。現在、用もなく一般の人が学校に入ることはできませんが、校庭のトイレの利用を許

可するとともに積極的に PR することによって、高齢者の方々も、安心して外出することができると思います。

ただし、問題点・改善すべき点もあります。トイレ環境についてです。現在、生徒たちは学校の外のトイレに対して暗い・汚い・くさいなどのマイナスのイメージを持っています。また、和式トイレは汚れやすいので洋式にしたいという意見も多数です。そこで、トイレ開放にあたり、トイレの環境の美化、並びに和式トイレから洋式トイレへの変更を提案いたします。

トイレ環境の美化についての具体例といたしましては、電灯をもっと明るくする、換気扇を設置することなどが挙げられます。また、洋式にすることで、汚れにくくなり、掃除もしやすくなります。さらに高齢者の方々の中には、腰が弱い、しゃがみにくいなど足腰に不安を抱えている方も大勢いらしゃるので洋式にすることにより、使いやすくなると思います。

次にゲートボール場など校庭に高齢者が活動できる施設を設置することについてです。

理由としては、高齢者の方々の外出の機会が増えたり、高齢者と小中学生とのふれあいができたりすることなどが考えられるからです。また、それにともない、小中学校の安全性の向上も期待できます。

以上の提案により、高齢者の方々の外出が増え、小中学生との交流などが深まると考えます。

以上で質問を終わりにします。よろしくお願いいたします。



32 番 中村ののか議員



32番、宇都宮海星女子学院高等学校の中村ののかです。宇都宮市の伝統文化について質問いたします。

宇都宮にはどんな伝統文化があるのか今の中高生にはあまり知られていません。主な伝統文化を調べてみると、宗円獅子舞(そうえんししまい)、鳶木遣り(とびきやり)、八坂神社(やさかじんじゃ)の神楽(かぐら)などがあることが分かりました。これらの伝統文化は、各世代間で、守り受け継いでいくことがとても大切であり、郷土の伝統について関心を高め、我々の世代も次の世代へきちんと伝えていく責任があると思います。

そこで、私たちは以下のことを提案します。

まず1つ目は、小中学校の給食に、伝統食を1ヶ月に1週間程度、“伝統食週間”として、給食の献立に1品ほど、取り入れることです。主に、小中学校の給食の特別な献立としては、行事食と伝統食が挙げられます。行事食は節分や七夕、県民の日などの記念日に出ますが、それに比べ、伝統食は圧倒的に献立に登場する機会が少ないのが、現状です。そこで、“伝統食週間”を取り入れることにより、小中学生が伝統食に触れる機会を作ることができ、宇都宮の伝統に少しでも興味をもつことができるのではないかと、私たちは考えました。

2つ目は、宇都宮伝統文化フェスティバルに新しい企画を導入することです。宇都宮伝統文化フェスティバルというのは、毎年秋に宇都宮城址(じょうし)公園で開催され、宇都宮市を代表する民俗芸能、伝統文化を体験できるイベントです。ですが、このイベントに参加する年齢層は高く、小

中高生の参加者が少ない状況にあります。そこで、小中高生の参加者を増やすべく、宇都宮伝統文化フェスティバルにクイズラリーを設けることを提案します。宇都宮の伝統文化に関するクイズを出題し、全問正解者には、伝統文化にまつわるグッズを贈呈し、参加者全員には、参加賞を贈呈する、自由参加型のクイズラリーです。これにより、伝統文化の知識を楽しみながら身に付けることができ、なおかつ、若い世代の参加率が増える見込みがあると、私たちは考えました。

これら2つの提案によって、今の若い世代が郷土の伝統についての関心を高め、宇都宮の伝統を守り、次の世代に伝えていくことが出来ると思います。

以上で質問を終わりにします。よろしくお願いいたします。

佐藤栄一宇都宮市長

議長，市長

谷口永峻議長

市長

〔佐藤栄一宇都宮市長 登壇〕

佐藤栄一宇都宮市長

「宮っこきずな部会」のご質問に、順次お答えいたします。

まず、水上議員の「学校の校庭のトイレの開放について」であります。高齢者への思いやりにあふれた議員のご質問に大変感心いたしました。

中心市街地などに設置している公衆トイレは、不特定多数の人を利用対象としておりますが、学校の校庭のトイレにつきましては、児童生徒や地域住民が校庭での活動の際に利用できるよう設置しており、学校活動や地域の行事などで多くの人に利用いただいているところであります。

学校は、地域との交流の場でありますので、防犯や安全対策に注意しながら今後とも、高齢者をはじめ、多くの方々に学校においていただきたいと考えております。

現在、市ではきれいなトイレを公共施設に設置しようという考えに基づきまして、例えば、柳田緑地、あるいは石井緑地をはじめとする、公の施設のトイレの改修を積極的に今、行っております。和式から洋式トイレに換えることも同じ様に行っておりますが、さて、校庭のトイレですけれども、現在、計画的に小便器や照明などの改修工事を行っておりますが、今後、高齢者が利用しやすい「洋式トイレの設置」につきましても検討してまいります。

次に、「校庭への高齢者が活動できる施設の設置について」であります。現在、学校におきましては高齢者の活動として、学校の授業の中で、「昔あそび」や「学校農園活動」の指導、学校の防犯活動として学校敷地内の安全パトロールなどにご協力をいただいております。小中学生と高齢者との交流が積極的に行われております。

議員ご質問の「ゲートボール場など的高齢者が活動できる施設を校庭内に設置すること」につきましては、校庭は、学校活動優先ですが、スポーツや地域イベントなど様々な目的で利用されておりますことから、校庭にはなるべく制約を設けずに限られた敷地を工夫して利用していくことが必要であると考えております。よって今後とも、高齢者の活動の場がさらに広がるよう学校と地域が

連携し、取り組んでまいります。

次に、中村議員の「宇都宮市の伝統文化について」のうち、「学校給食に伝統食を取り入れることについて」であります。議員ご提案のとおり、学校給食を通して、先人の知恵や郷土の食文化に対する興味や関心を高めていくことは、大変意義のあるものと考えております。

そのようなことから、本市におきましては、初午の時の「しもつかれ」や、古くからの特産品である夏のかんぴょうを使った「卵とじ」、秋の「栗ごはん」などを学校給食の献立に取り入れているところであります。

議員ご提案の「一週間程度伝統食週間をもうけること」につきましては、とてもすばらしいアイデアであります。伝統食は、季節の行事や食材などと深く関わっておりますので、一週間の中でのというのはなかなか難しいかと思えますけれども、季節に応じ、一年間を通して一品でも多く提供していくことで、給食を通して、伝統食の背景や謂れなどを伝え、郷土の伝統に対する興味がさらに深まるよう取り組んでまいります。

次に、「宇都宮伝統文化フェスティバルで小中高生向けのクイズラリーを行うことについて」であります。皆さんが暮らす「ふるさと宇都宮」には、獅子舞などの郷土芸能のほかにも、特産の大谷石細工やふくべ細工などの伝統工芸や、黄ぶなをはじめとした市内各地に伝わる民話など、数多くの伝統文化が残されています。

本市では、これらの伝統文化を、多くの市民、特に中村議員のようなこれからの時代を担う若い世代の人々に知ってもらい、身近にふれあう機会が必要であると考えております。

こうしたことから、平成18年度より宇都宮伝統文化フェスティバルを開催しており、こども獅子舞やこどもお囃子など多くの小中高生に出演していただいております。

今年も11月2日に宇都宮城址公園で実施する予定であり、獅子舞や神楽などの伝統文化の披露とともに、皆さんが直接体験できるお囃子や梯子乗り、てまりづくりなどのブースを設置する予定です。

議員ご提案のクイズラリーにつきましては、小中高生の皆さんが楽しみながら伝統文化を知っていただけるよい機会でありますので、クイズと体験を組み合わせるなど内容を工夫するとともに、大谷石細工やふくべ細工といった伝統工芸品などの景品を用意し、今年から実施してまいります。

議員の皆さんには、たくさんのお友達と一緒に、ぜひご参加ください。

谷口永峻議長

以上で、宮っこきずな部会の質問を終了します。

